

ワークショップ 4

「消化管領域における再生医療の最前線」

司会 鈴木 秀和（東海大学医学部内科学系消化器内科学）

炭山 和毅（東京慈恵会医科大学内視鏡医学講座）

消化管の機能性・器質性障害に対する有望な治療法として、再生医療技術の応用が検討されている。特に、幹細胞移植や tissue engineering 技術による再生臓器移植は、炎症性腸疾患や先天性異常、さらには難治性消化管運動障害に対する有望な治療法となり得る。また、ヒト由来細胞を用いた動物モデルや人工臓器の確立は、薬剤開発のみならず、様々な消化管疾患の病因論的理解を深めることにも資する。消化管を切らずに機能を再生する、あるいは切って失った機能を代償させるための再生医療など様々な応用例が考えられる。本セッションでは、基礎研究のみならず臨床導入へ向けたトランスレーショナルな課題を明らかにし、社会実装へ向けた活路を見出すような議論を期待したい。